2020 年度　行岡医学技術専門学校　学校評価

〇実施学科
　看護第１学科
　歯科衛生科

〇実施時期
　自己評価：２０２０年４月
　学校関係者評価：２０２０年５月～７月

〇学校評価の方針

自己評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） （ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） 各学科「学校法人行岡保健衛生学園自己評価表」に基づいて、自己評価を実施している。評価項目については、「専修学校における学校評価ガイドライン（文部科学省生涯学習政策局：平成 25 年３月）を参照して定めている。 なお、自己評価結果については、学校法人行岡保健衛生学園「情報公開」で公表している。		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
各学科「学校法人行岡保健衛生学園自己評価表」に基づいて、自己評価を実施している。評価項目については、「教育理念・目標」、「学校運営」、「教育活動」、「学習成果」、「学生支援」、「教育環境」、「学生の受け入れ状況」、「法令等の遵守」、「社会貢献・地域貢献」、「法人運営・財務」の 10 項目である。 また評価委員会については、各学科の専門分野における業界関係者（就職先・実習先施設、業界団体、職能団体職員）、学校運営に関する専門家（学校マネジメント）、卒業生より人選している。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
看護専門学校教学部長	令和２年４ 月１ 日～ 令和３年３ 月 31 日 （任期更新）	学校運営に関する専門家（マネジメント）

短期大学教授	令和２ 年４ 月１ 日～ 令和３ 年３ 月31 日 （任期更新）	教育関連
歯科医院	令和２ 年４ 月１ 日～ 令和３ 年３ 月31 日 （任期更新）	業界関係者（産業界、卒業生）
歯科医院	令和２ 年４ 月１ 日～ 令和３ 年３ 月31 日 （任期更新）日	業界関係者（産業界、卒業生）
医療機関	令和２ 年４ 月１ 日～ 令和３ 年３ 月31 日 （任期更新）	業界関係者（産業界、就職先、実習先）
医療機関	令和２ 年４ 月１ 日～ 令和３ 年３ 月31 日 （任期更新）	業界関係者（産業界、卒業生）
医療機関	令和２ 年４ 月１ 日～ 令和３ 年３ 月31 日 （任期更新）	業界関係者（産業界、就職先）
整骨院院長、同窓会役員	令和２ 年４ 月１ 日～ 令和３ 年３ 月31 日 （任期更新）	業界関係者（産業界、卒業生）
整骨院院長、職能団体役員	令和２ 年４ 月１ 日～ 令和３ 年３ 月31 日 （任期更新）	業界関係者（産業界、職能団体）
会社役員、同窓会役員	令和２ 年４ 月１ 日～ 令和３ 年３ 月31 日 （任期更新）	業界関係者（産業界、卒業生）
整骨院代表、同窓会役員	令和２ 年４ 月１ 日～ 令和３ 年３ 月31 日 （任期更新）	業界関係者（産業界、卒業生）
学校関係者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） 学校法人行岡保健衛生学園「情報公開」で公表している。		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c ）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） 行岡医学技術専門学校ホームページhttp://www.yukioka.ac.jp/igaku/

行岡保健衛生学園　自己評価表(2020年度)

学校名：行岡医学技術専門学校
学科名：看護第1学科
記入者：吉田　菊江（専任教員　13名）

1．学校の教育目標

学則・授業計画 P2 参照

1．人間を成長発達変化している身体的・精神的・社会的霊的(スピリチュアル)に統合された存在として捉え、幅広く理解する能力を養う。
2．人間の健康と生活を物理的・生物的・社会的・文化的 環境との相互作用の観点から理解する能力を養う。
3．人間の多様な考え方を認識し、喜び、苦しみ、痛みを分かち合え、倫理に基づき看護を実践する。
4．人々の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に 基づいた看護を実践する基礎的能力を養う。
5．専門職としての成長をめざして、社会情勢の変化や科学・技術の進歩に関心を持ち、自ら学び続ける態度を養う。
6．保健医療福祉制度と他職種の役割を理解し、チーム医療を実践するとともに、人々が社会的資源を活用できるように、それらを調整するための能力を養う。

2．学科の教育目標

授業計画各科目目標 P7～P13
実習要項の P 各看護学実習 45・P57・P80・P92・P102・P114・P120・P130

（2）学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや適切・・・2、不適切・・・1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 ③ 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4 ③ 2 1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 ③ 2 1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4 ③ 2 1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 ③ 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 ③ 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 3 ② 1

① 課題

・就業規程が古い。給与体系が不明瞭。

・パンフレット、HP も毎年更新している。学生のニードに沿ったものとしていく。(受験生の情報収集方法は HP が 1 位)

② 今後の改善方策

・就業規則は事務方に整備依頼をしている。

・SNS に関する規程が追加され、学生・職員に周知した。

・管理システムを購入し、基礎データの入力中。システムを使用し業務の効率化を図る。

③ 根拠資料

・学則（組織に関する規程）・・・・1の資料参照

・個人情報保護方針（学生便覧、実習要項)、ソーシャルメディア利用ガイドラインを追加

・ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ・保護者懇談会で「学校説明」資料（国家試験合格率、入試倍率、就職率、実習病院の公開)、募集パンフレットに実習病院の公開

④ 特記事項

① 課題

・卒業時の到達度目標を見直す。同時に 3 つのポリシー（ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝﾎﾟﾘｼｰ・ｶﾘｷｭﾗﾑﾎﾟﾘｼｰ・ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾗｲｼｰ）のうちｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝﾎﾟﾘｼｰは明文化したが他は明文化がない。

・2020 年度、教員の病気のための中途退職があった。

・能力開発のための研修受講が少ない。（出帳扱い、交通費の補助があるのみ）

・新任教員が業務がわかりやすい体制をつくる

② 今後の改善方策

・明文化する

・教員の能力開発のための研修（管理能力・改正ｶﾘｷｭﾗﾑ、コーチング）の受講や当校での研修会の企画をする。出帳扱い、交通費の補助を有効利用する。

・教員の計画的確保（健康で継続勤務できる人、教育経験がある人）

③ 根拠資料

・授業計画（教育目標・学年別教育目標・科目構造図・分野別目標など）

・実習要項

・学生による講義・実習評価

・教員の研修受講状況

・2020 年度度教員一覧表

④ 特記事項

・2022 年度入学生からｶﾘｷｭﾗﾑ改正する運び（厚労省）。

・実習評価は施設の実習指導者会で伝達している。指導者や看護部から意見をいただいている。

・授業評価はすべての講師・教員にフィードバックしていく。

・国家資格取得に対して問題集の 1 年生からの購入し取り組んでいる。模擬テスト、個別指導、補講、保護者への協力依頼の文章発送などの体制は整えている。模擬テスト業者との連携もある。

・教員は指定規則上の人数は確保できているが、実習病院が多岐にわたっているのであと数名は確保したい。実習指導教員は 2 名在籍。教務事務の採用ができた。

（5）学生支援

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや適切・・・2、不適切・・・1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
・保護者と適切に連携しているか	4 ③ 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 3 ② 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1

（6）教育環境

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや適切・・・2、不適切・・・1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4　③　2　1
・学内外の実習施設、インターシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4　3　②　1
・防災に対する体制は整備されているか	4　3　②　1

① 課題

・南海トラフなどの自然災害を見据えた防災体制の整備(コロナ禍含む)

災害時の行動指針の整備と実地訓練

遠隔授業の体制整備

① 今後の改善方策

・実践的な防災体制の整備　　学生の学内における物資のストックについて指導する。

・遠隔授業の体制整備

② 根拠資料

・学内外の実習施設の教育体制の整備：実習要項

・防火訓練実施の実施（コロナ禍で中止した）

・大阪 880 万人の訓練に参加

・在宅訪問看護ステーションのｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟへの参加状況

② 特記事項

・学内外の実習施設について十分な教育体制の整備：実習施設は大阪府に申請し実地調査後承認を受けている。(指導要領で整備すべく、実習指導者の要件や図書の整備、更衣室、討議室、必要備品の整備など)

・就職活動と関連させて、実習病院等の病院のｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟに参加している。

・現在 ZOOM で講義を一方向で実施しているが、双方向での整備が求められる。

（8）財務

評価項目	適切･･･4、ほぼ適切･･･3、 やや適切･･･2、不適切･･･1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4　③　2　1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4　③　2　1
・財務について会計監査が適正に行われているか	4　③　2　1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4　③　2　1

① 課題

⑤ 今後の改善方策

⑥ 根拠資料

⑦ 特記事項

・H29 年度財務報告書（HP で公開）

・毎年の監査状況

（１０）社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・４、ほぼ適切・・・３、やや適切・・・２、不適切・・・１
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	４　３　②　１
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	４　３　②　１
・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	４　３　②　１

① 課題

・学校が地域に開かれてない、学校や学生の地域貢献が少ない。

⑤ 今後の改善方策

・地域に対する公開講座やボランティア、高校からの出前授業などに取り組む。

・地域ニーズの把握、公開講座の実施（本庄校舎で主催する腰痛講座の実施時に血圧測定や足浴の実施で参画する。）

⑥ 根拠資料

③ 特記事項

・認知サポーター場所として認定された。授業で、養成講座を取り入れた。

・OC への学生応援,学生の保育園の運動会への参加や老人ホーム・デイケアのなどの夏祭り参加、行岡バザーの協力・参加している。（コロナ禍で中止）

・行岡病院の卒後教育の一環として、「人工呼吸器蘇生人形」「AED」採血練習用「血管くん」貸し、活用していただいている。

・当校歯科の講義を実施している。

・コロナ禍において出前授業を実施できず。（コロナ禍で中止）

・実習病院との年１回の講演会や指導者会などを通して交流している(コロナ禍で中止)

・１階ホールに情報掲示板を作り地域のボランティア情報を提供している。

2020 年度　学校法人　行岡保健衛生学園　学校関係者評価

実施日：　2021 年 4 月 22 日（木）14：00～16：30
学校名：　行岡医学技術専門学校
学科名：　看護第 1 学科
評価者：　学校運営に関する専門家

【講評】

・全体的に課題に対しての取り組みがはかられ、適正な学校運営がされている。
〇理念・目標をもとに、様々な医療系学科があることが特徴なので、学園の理念「協同」が大きな柱となっている。学生・保護者には「協同」は抽象度が高いので平易な言葉での明文化が必要ではないか。
〇ディプロマポリシーに関しても、看護第 1 学科の特徴を踏まえて、卒業時にどんな学生になってほしいかを明文化することで明確になるのではないか。
（課題）カリキュラム改正に向けて、設定を考えてもよいのではないか。
〇多くの職種の育成校であり、多職種連携への取り組みができることは強みである。また、学校のPRポイントでもある。
〇学校運営に関しては、資料を基に適正に運営されていることがわかる。
〇個人情報の取り扱いについても、規定を定め、学校運営での改善がはかられている。
〇教育活動
・全体的に、年々整備されていることがわかる。
・講義評価について、アンケートをもとにフィードバックできており、改善への視点がある。
（課題）教員自身の自己評価も取り入れることで、教授計画改善や学習の動機付けに繋げ、教育効果の向上をはかっていく。
・講義研究も、参観型で年度ごとに増やす目標をたてており、実践していくとよい。
〇学習成果
・自己評価を重ね、国家試験合格率も年々上がっており、適切に運営されている。
〇学生支援
・2020 年度より、スクールカウンセラーの導入をされている。校舎内には不在であることから、今後はオンラインなどで、学生への対応が早くできるように考えてもよいのではないか。
〇地域・社会
・2020 年度は、コロナの影響でほぼ中止であるのは、どの施設も同様。昨年度は、過度に接触をさけたが、今年度はその学びから、オンラインなどでコロナ禍でも可能な地域貢献の取り組みを考えることもできるのではないか。　以　上

行岡保健衛生学園　自己評価表

学校名：行岡医学技術専門学校
学科名：歯科衛生科
記入者：福田　弘美

１．学校の教育目標

本校の教育理念の「協同」から発展して、「適応力豊かな医療人の育成」

２．学科の教育目標

「適応力豊かな医療人」を目指すうえで、学生には、科の教育目標は「成し遂げる力」を養うことであると示している。
「成し遂げる力」を達成するためには
・歯科衛生士になるという強い思いを持つこと。
・相手を思いやり、寄り添う気持ちをもつこと
・心身ともに健康であること

３．評価項目の達成及び取組状況

（1）教育理念・目標

評価項目	適切･･･４、ほぼ適切･･･３、やや適切･･･２、不適切･･･１
・学校の理念・目的・人材育成像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	４ (３) ２　１
・学校における職業教育の特色は何か	４ (３) ２　１
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	４ (３) ２　１
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	４ (３) ２　１
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	(４) ３　２　１

①　課題

学校の理念、目的等は入学前のオリエンテーション（学生・保護者説明会）にて周知している。将来構想までは周知していない。

②　今後の改善方策

学生へは臨床実習前のガイダンス時に再度学校の理念・目的を徹底していく。

③根拠資料

資料１参照

③　特記事項

（２）学校運営

評価項目	適切･･･４、ほぼ適切･･･３、やや適切･･･２、不適切･･･１
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	４ (３) ２　１
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	４ (３) ２　１
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	４　３ (２) １
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	４ (３) ２　１
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	４　３ (２) １
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	４　３ (２) １
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	４　３ (２) １
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	４　３ (２) １

①課題

教員は毎日午前と午後の学生点呼、非常勤講師への講義資料印刷準備並びに担当科目講義など、業務は多岐に及んでいる。そのため業務の効率化が図られずらい。

②今後の改善方策

③根拠資料

④特記事項

（３）教育活動

評価項目	適切･･･４、ほぼ適切･･･３、やや適切･･･２、不適切･･･１
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方法等が策定されているか	４ ③ ２ １
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえ、就業年限に対応した教育到達レベルが明確にされているか	４ ３ ② １
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	４ ③ ２ １
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	４ ③ ２ １
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	４ ３ ② １
・関連分野における実践的な職業教育（インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	４ ③ ２ １
・授業評価の実施・評価体制はあるか	４ ３ ② １
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	４ ３ ② １
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ ３ ２ １
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	４ ③ ２ １
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	４ ③ ２ １
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネージメントが行われているか	４ ③ ２ １
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	４ ③ ２ １
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	４ ３ ② １

① 課題

授業評価の実施が緒についたところである。

② 今後の改善方策

各科目の授業評価については、種々の意見交換を行い、確実な評価になるように努めたい。

③根拠資料

・関連分野における業界との連携　資料２

・成績評価など

④特記事項

（4）学修成果

評価項目	適切･･･４、ほぼ適切･･･３、やや適切･･･２、不適切･･･１
・就職率の向上が図られているか	(4) 3　2　1
・資格取得率の向上が図られているか	4 (3) 2　1
・退学率の低減が図られているか	4　3 (2) 1
・卒業生･在校生の社会的な活躍及び計画を把握しているか	4　3 (2) 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 (3) 2　1

①　課題

国家試験合格率は 3 年連続で全国平均以上となっている。しかし 100%の合格率には至っていない。受験生全員が資格取得できるようにすることが課題である。

毎年一定数の退学者がみられる。その対策として面談を前期と後期に実施している。面談は面談カードに学生が記入した後実施する。カードの内容並びに管理方法の見直しが必要である。

②　今後の改善方策

退学防止策として、保護者との面談をこれまで以上に図る方法を検討している。

年に一回は保護者懇談会を実施していきたいと計画している。

③根拠資料

面談カード　資料５・６

④特記事項

（５）学生支援

評価項目	適切･･･４、ほぼ適切･･･３、やや適切･･･２、不適切･･･１
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 (3) 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4 (3) 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 3 (2) 1
・学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4 (3) 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 3 (2) 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 3 (2) 1
・保護者と適切に連携しているか	4 (3) 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 (3) 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 (3) 2 1
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 (3) 2 1

①課題

卒業生への卒後研修が実施できていない。

②今後の改善方策

卒業生への研修（時代のニーズに即した）を計画していきたい。

③根拠資料

進路・就職に関する状況を把握する調査票を提出し、相談に乗っている。

④特記事項

（６）教育環境

評価項目	適切･･･４、ほぼ適切･･･３、やや適切･･･２、不適切･･･１
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	４ (３) ２　１
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	４ (３) ２　１
・防災に対する体制は整備されているか	４ (３) ２　１

①課題

実習室の機器が老朽化し、修理をしながら使用している。

②今後の改善方策

③根拠資料

防災に関する資料

④特記事項

（７）学生の受入れ状況

評価項目	適切･･･４、ほぼ適切･･･３、やや適切･･･２、不適切･･･１
・学生募集活動は、適正に行われているか	４ (３) ２　１
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	４ (３) ２　１
・学納金は妥当なものとなっているか	４ (３) ２　１

①課題

・学生募集活動は適正に行われていると考える。しかし、歯科衛生士を希望する高校生の割合が減少傾向にあることが課題である。

②今後の改善方策

高校訪問の回数を増やすなど、訪問の時期を考慮しながら今後の募集活動を展開していく。

③根拠資料

　学納金等

④特記事項

（８）財務

評価項目	適切･･･４、ほぼ適切･･･３、 やや適切･･･２、不適切･･･１
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	４　３　２　１
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	４　３　２　１
・財務について会計監査が適正に行われているか	４　３　２　１
・財務情報公開の体制整備はできているか	４　３　２　１

①課題

②今後の改善方策

③根拠資料

④特記事項

（９）法令等の遵守

評価項目	適切･･･４、ほぼ適切･･･３、やや適切･･･２、不適切･･･１
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ ３ ２ １
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	４ ③ ２ １
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	４ ③ ２ １
・自己評価結果を公開しているか	４ ③ ２ １

①課題

自己点検、自己評価は遅れる傾向にある。

②今後の改善方策

速やかな自己点検や学校評価を行い、その結果を速やかに公表したい。

③根拠資料

④特記事項

（１０）社会貢献・地域貢献

評価項目	適切･･･４、ほぼ適切･･･３、やや適切･･･２、不適切･･･１
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	４　３　(２)　１
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	４　３　(２)　１
・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	４　３　(２)　１

①課題

ボランティア活動は推奨している。

②今後の改善方策

学内で地域貢献を実施していれば連携を図り、支援できる体制を考えていく。

③根拠資料

④特記事項

2020 年度　学校法人　行岡保健衛生学園　学校関係者評価

実施日：　2021 年 5 月 29 日（土）14：00～16：00
学校名：　行岡医学技術専門学校
学科名：　歯科衛生科
評価者：　学校運営に関する専門家（2 名）

【講評】

2 名の評価員ともに本学科の教育並びに取り組みとして「適切」であると評価できる。その中で評価が低かった項目について、今度の展望も含めた課題としてまとめる・

【課題】

特記事項に記載する内容として、建学の精神及び教育理念に基づいた教育を受けて活躍する卒業生などの講話を聴く機会を設けることとしてはどうか。
今後の取り組みとしてオープンキャンパスや学校見学会に来校していただく機会を設けたい。
情報教育に係る教員研修会の実施、教員の FD 研修会に関する実施が必要。

職員の能力開発のための SD 研修は必要な研修会としての認識が必要と考えるが、実際には開催頻度が少ないとの印象がある。社会ニーズを的確に掴み、教育を実施していくうえで、職員も含めた各種研修会は必要と考える。

学校の教育資源や施設を利用した社会貢献活動への取り組みが少ないように感じる。今後は地域住民を対象とした公開講座やセミナーなど地域連携活動の検討を進めてほしい。

行岡保健衛生学園　自己評価表

学校名：学校法人行岡保健衛生学園
（行岡医学技術専門学校・大阪行岡医療技術専門学校長柄校）
所　属：学園事務局
記入者：山田　豊

１．学園の創設

学校法人行岡保健衛生学園（以下「本学園」という。）の創設は、昭和７年に大阪接骨学校として認可され、翌年の昭和８年に大阪接骨学校を開校したことを起源としている。また、大阪接骨学校の実習先として、昭和９年に大阪接骨学校附属行岡外科病院（現在の行岡病院）を開設した。

本学園創設以来、現在に至るまで８０余年にわたり、社会の要請に応える医療技術の人材を育成してきた。現在は行岡医学技術専門学校において、看護師、歯科衛生士を養成し、大阪行岡医療専門学校長柄校において、診療放射線技師、臨床検査技師、はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧師、柔道整復師の養成を行っている。理学療法士に関しては、昭和４５年より専門学校として養成してきたが、社会の要請に応えるべく平成２４年に大阪行岡医療大学を開学し、大学教育をスタートさせた。本学園のこれまでの卒業生は２万人を超え、卒業生の多くは医療機関、行政機関、教育機関等でその中核として活躍している。

２．建学の精神

本学園の建学の精神は、創設者である行岡忠雄博士による「医療は医師のみの力でなしえるものではなく、多くの医療技術者との「協同」の上に成り立つものである。より良い医療を実現するには、良い医師と、良い医療技術者は必要である。」との考えに立っており、これは現在の「チーム医療」に通ずる考え方であり、各学科においてはその建学の精神を基に、優れた医療技術者養成を目指して日々学生教育に精励している。

この建学の精神は、医療に従事する者に求められる多職種との共同及び連帯感を示したものであり、本学園では創立時からの建学の精神を礎として、患者様、家族、社会に対してよりよく幅広く適応するということを目的に、「適応力豊かな医療人の育成」を教育目標として掲げている。

（根拠の資料）
・「仁の人」行岡忠雄博士（2018.3 発行）
・学校法人行岡保健衛生学園寄附行為
・学校要覧

２．評価項目の達成及び取組状況

（２）学校運営

評価項目	適切･･･４、ほぼ適切･･･３、やや適切･･･２、不適切･･･１
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	(4) 3　2　1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	(4) 3　2　1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	(4) 3　2　1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	(4) 3　2　1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	(4) 3　2　1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	(4) 3　2　1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 (3) 2　1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 (3) 2　1

①課題

○学校教育法の法令を踏まえ、教育活動等の状況について自己点検の実証、結果公表、第三者による検証が喫緊の課題である。

○業務改善、業務改革について組織横断的な検証が必要である。

②今後の改善方策

○自己点検評価、学校関係者評価の実施、結果の公表は速やかに行う予定としている。

○業務改善による業務効率の向上、情報の共有、並びにトータルコストの削減を目的としてグループウェアの導入を検討している。将来的にはＢＰＲの視点より、業務プロセスを全体の見直しを図ることとする。

③根拠資料

○学校法人行岡保健衛生学園　規程集

○学校法人行岡保健衛生学園　寄附行為

④特記事項

（８）財務

評価項目	適切･･･４、ほぼ適切･･･３、やや適切･･･２、不適切･･･１
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ ３　２　１
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ ３　２　１
・財務について会計監査が適正に行われているか	④ ３　２　１
・財務情報公開の体制整備はできているか	④ ３　２　１

①課題

〇学園の中長期計画に基づいた基本金組み入れの検討が必要である。

（教育環境の整備の視点により、2 号基本金、学生支援の視点より 3 号基本金）

〇経営安定の視点より、学生生徒等納付金収入の安定を図ることと併せて、寄附金、外部競争的資金及び補助金等の獲得に対して、戦略的継続的な取り組みが必要である。

②今後の改善方策

・専修学校振興予算の獲得

・教育訓練給付金講座の申請

・特定公益増進法人の認可申請

③根拠資料

・財務報告書

・財務関連比率

④特記事項

（９）法令等の遵守

評価項目	適切･･･４、ほぼ適切･･･３、やや適切･･･２、不適切･･･１
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	(4) 3　2　1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 (3) 2　1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4　3 (2) 1
・自己評価結果を公開しているか	4　3 (2) 1

①課題

・学校教育法の法令を踏まえ、教育活動の状況について自己評価の実施、結果公表、大三者による検証が喫緊の課題である。

②今後の改善方策

・自己評価、学校関係者評価の実施、結果の公表

③根拠資料

・厚生労働省指定養成施設、変更承認申請及び学則等変更届

・専修学校設置基準に係る変更承認申請及び学則等変更届

・専門学校定例会議資料

・理事会・評議員会議事録

④特記事項